# 日本天文学会秋季年会より

編集部

10月15日（火）～18日（金）に、水戸市民会館で日本天文学会秋季年会が行われ、次のような発表がなされました。

＜太陽＞

・1991年７月11日皆既日食の観測報告（Ⅰ）

：黒河宏企、北井礼三郎、石浦清美（京大理付属天文台）

・1991年７月11日皆既日食の観測報告（Ⅱ）

：北井礼三郎、黒河宏企、石浦清美（京大理付属天文台）、山崎順一（ＮＨＫ放送技研）

・1991年７月11日の日食におけるコロナのスケッチ

：田鍋浩義、青木光子、井上　毅、永田卓也、柴山治子、田鍋光子（メキシコ、カボ・サン・ルーカス日食観測グループ）

・７月11日の皆既日食時に観測されたモヒカン刈りコロナ面

：斎藤尚生、沼澤茂美、小塚幸央、赤祖父俊一（東北大理、ＪＰＬ，アラスカ大地物研）

・1991年メキシコ日食：コロナ中の低温物質を探る

：末松芳法、西野洋平、福島英雄（国立天文台）

＜太陽系＞

・メキシコ日食におけるコロナ偏光観測

：田辺俊彦（東大理）、磯部秀三、野口本和（国立天文台）、谷　文明（北大工）、Manuel Alvarez（メキシコ国立天文台）、他メキシコチーム

＜ポスターセッション＞

・1991年メキシコ日食：コロナの構造について

：福島英雄、西野洋平、末松芳法、宮崎英昭（国立天文台）

・ＳＵＭ法によるコロナ画像

：沼澤茂美（Japan Planetarium Lab.）

・Ｆコロナ偏光測光観測用望遠鏡

：野口本和、磯部秀三、田辺俊彦、圓谷文明、金子幸男（国立天文台、東大理、北大工、神和光器）

・バレリーナ・スカート回転反転の解析的表示

：竹内　仁、斎藤尚生、小塚幸央、高橋忠利（東北大理）

・カラービデオによるフラッシュスペクトルの撮影

：佐藤　勲（海上保安庁水路部）、冨田弘一郎（ＡＥＳ）、北崎勝彦（海城学園中高校）戸田雅之（ｼｽﾃﾑｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ）

さすがに大日食の後だけあって、例年になく多くの日食観測の発表がなされました。しかし、日食からたった３カ月後ということもあって、いずれも観測の概要にとどまっていたのはしかたありません。プロの観測はそう簡単に結果が出るものではないということでしょう。

その中で、「1991年７月11日皆既日食の観測報告（Ｉ）」で上映されたビデオは目を引きました。ラ・パスのバハ・カリフォルニア自治大学構内で行った観測ですが、15ｃｍ４連屈折にカメラ５台とＴＶカメラ３台を付け、Ｈα、ＦｅＸの6374　、ＦｅＸⅣの5303　、ＣａＸＶの5694　の各輝線、6100　の連続光を同時撮影したものの一部です。リム近くの拡大像でしたが、さすがにアマチュアとはひと味違う、プロの映像でした。

また、同じ場所で観測を行った「1991年メキシコ日食：コロナの構造について」の報告は、FC-100とFC-76 に干渉フィルターを付けて、中性ヘリウムの近赤外と鉄の5303　を。また、10ｃｍカセグレンにグレーティングと冷却ＣＣＤ及びカメラをつけて行った観測の報告でした。今回はこれより大きな望遠鏡を持って行ったアマチュアも大勢いることを思えば、ずいぶん参考になるのではないでしょうか。

「ＳＵＭ法によるコロナ画像」は、基本的に「天文ガイド」に掲載されたのと同じですが、印刷ではなく生の写真は、さすがに見事にコロナを描写しています。

「メキシコ日食におけるコロナ偏光観測」は、標高5250ｍのポポカテペトル山で行われたものです。いくら晴天率の悪いメキシコ本土でも、5000ｍを越える高山なら雲の上だろうと思っていたのですが、当日は薄い絹雲が出ていたため、絶対測光はできなくなったそうです。

今後数年にわたって、今回の観測成果が順次発表されていくことでしょう。楽しみなことです。また、大勢のアマチュアも天文学会の会員になっているのですから、成果が出たものはこういう場でどしどし発表してみたらいかがでしょう。